

御用格 (二)

御用格 六

御家中

(1) 養子

(2) 縁組

(3) 年若 = 付里方江引取

B 以下附として「離縁」がついている。

(4) 袖留 C (4) 以下記事なし

(5) 前髪執 B、C (4) 以下記事なし

C (4) 以下「前髪」とある。

(6) 惣髪 剃髪

C (4)、C (4) は「惣髪」とある。

(7) 摘髪 C (4) 以下記事なし

(8) 諸御礼

(9) 柘御礼 B 以下記事なし

(10) 足袋

B 以下次に「養女呼取」の項がある。

(11) 御役御免 C (4) 以下記事なし

(12) 隠居

(13) 末期

(14) 忌中忌明け

(15) 家督

(16) 申立

(17) 御飛脚

C (4) に附として「他領御暇」がついている。

B 以下次に三項目が加えられている。即ち

(1) 舊古登見習登附添登 (C (4)、D は「返登附」)

(2) 御家中他回江御暇

(3) 在町他領出 (D に附として「御飛脚并他」)

(18) 登下 御切手紙

B 以下は「惣而登下 (C (4) 以下は「登下」)

「御切手紙并御印紙 (C (4) 以下は「御印紙並」

る」の二項目に分れている。尚C (4)、D は

「登下」は「御飛脚」の次にある。

B は「御用格 六」が二冊よりなり、(15)迄が

六ノ一に、(16)以下が六ノ二収められている。

御用格 七

御家中

(1) 湯治

(2) 在御服

(3) 駕籠

(4) 雪船

(5) 幕

(6) 月代敷

(7) 産穢

(8) 附添

(9) 師役

①に「孝向所」、②に「孝向所并講釈」と附がっている。

又Bは「孝向所」、Dは「孝向所并講釈」と独立した項目が次に掲げられている。

B以下次に「御備方」の項目がある。

(10) 誓詞

(11) 御筆 御医者

B以下「金瘡療治」の附がある。

(12) 供廻 往来

(13) 一統御觸

①以下この項の細目がある。即ち

(a) 上々様并御役人之儀ニ付附下座等之義

(b) 武藝并役馬武器鞍革等之儀

(c) 七夕金踊花火落書紋付御場所柄江入込其外惣

而悪遊等之義

(d) 諸取引金價秤等之義

(e) 人別並他領もの御締御尋もの惣而凶事向等之

義

(f) 諸御觸

御用格 八

高岡

(1) 被仰出 ①、D記事なし

(2) 御神事 ①記事なし

B以下次に「御告」の項目がある。

(3) 御寄附被獻物

(4) 御修復 (①以下「御修復」とある)

B以下附として「御建立」がついている。

(5) 祭司役

(6) 諸番人 ①以下記事なし

(7) 御家中獻上物

Bに「御家中拜禮」、Cの以下に「拜禮」と附がついている。

(8) 申立 Cの記事なし

CのDは順序が(5)・(6)・(7)の順である。

寺社

(1) 被仰出

(2) 御目見 登城

(3) 御出汗

B以下附として「時鐘」がついている。

(4) 堂社鳴動 CのD記事なし

(5) 御神事

B以下次に「御告」の項がある。

(6) 御祈禱

Bに附として「神事能」がついている。

御用格 九

寺社

(1) 上々掾御祈禱

(2) 御代参

CのDに「御告」と附がつき、又Dは「御代参 御名代御参詣」となっている。

(3) 周帳 CのD記事なし

Bは「祭禮夜宮」と附がついている。

(4) 遷宮

Bに「供養加持」、CのDに「供養」と附がついている。

(5) 御祭禮 CのD記事なし

(6) 太々神楽

(7) 御寄附

Bは「御寄附御獻備」となっており、さらにそれがCのD以下は二項目に分れている。

(a) 御寄附

(ii) 御獻備自分寄附共 (CのDは附がなく、Dは「の名が変」になっている)

(8) 御建立 CのD記事なし

Bに「自分建立勝手棟札」と附があり、Dは項目が「御建立自分建立」と変っている。

(9) 御修復 CのD以下は「御修復」となっている

(10) 御法事 毎禮 大赦

この「大赦」が附となり、マDは「大赦御
法号」を附している。

(11) 後任

Bに附として「看主見継」がついている。

(12) 跡職

この記事なし

(13) 御暇

Bに「御用ニ付登リ」、この以下に「他領」

と附がついている。

(14) 隠居

この、この記事なし

(15) 参目登

(16) 官職登

Bに附として「勤學登」がついている。

御用格 拾

寺社

(1) 什物改

この、この記事なし

(2) 御業願

この記事なし

(3) 御医者願

この、D記事なし

(4) 湯治

同右

B、この、Dは「湯治願」としている。

(5) 御幕拜借

(6) 勅化 この、D記事なし

Bに附として「富突」がついている。

(7) 杉伐取

この以下記事なし

Bに附として「伐荒等」がついている。

(8) 差上物

この以下記事なし

(9) 被下物

(10) 寺社奉行

(11) 三日市

(12) 羽黒山

(13) 尾崎

この以下記事なし

(14) 座敷

この、D記事なし

御用格 拾電

寺社

(1) 禁足

この、りけ「禁足懐」となっている。

(2) 凶寺

(3) 出火

この記事なし

(4) 寝事

この以下記事なし

(5) 申立

御用格 拾式

郡 (C) (D) 以下は「郡方」となっている。

(1) 被仰出

(2) 郡奉行

(3) 代官

(4) 御目見 御賞 帯刀御免 (D) 記事なし

(5) 御紋形 (C) (D) 記事なし

(6) 衣類 同右

(7) 被下物

Bに附として「差上物」がついている。

(8) 植付物 (C) (D) 記事なし

Dに附として「漆方」がついている。

御用格 拾参

町 (C) (D) 以下は「町方」となっている。

(1) 被仰出

(2) 町奉行

(3) 御目見

Bは「御目見帯刀御免」となっている。

(4) 御紋形 (C) (D) 記事なし

(5) 衣類

(6) 町年寄 (C) (D) 記事なし

(7) 町医

(8) 牢屋

B以下「牢屋揚屋」となっている。

又B以下次の三項目が加えられている。

(1) 差上物被下物 (C) (D) 以下は「被下物附」

(2) 人別方

(3) 旅人御締向 (C) (D) の項はB、Dにはこの項がない。

御用格 拾四

勘定所

(1) 被仰出 (C) (D) 記事なし

(2) 勘定奉行

(3) 御米方 (C) (D) 記事なし

(4) 御用方 B、C (D) 記事なし

(5) 御登世物 御下し物

Bは「御登世料」「御下し物」の二項に分れ

ている。

(6) 押物 拾物 D 記事なし

(7) 御持物 同右

(8) 御荷物 C 以下、D 記事なし

(9) 前方御座

B 以下に「諸士場」が附としてあり、D は「所々御座面御金奉行共附士場」となっている。

(10) 四衛行

B 以下は次に「諸渡物御扶持方」の項がある。

御用格 拾五

御御座

(1) 御側廻

C 以下は「御側役」となっている。

(2) 御小納戸 C 以下記事なし

B 以下は次に「奥通」の項がある（D 記事なし）

(3) 大納戸

(4) 坊主方

B 以下に附として「時計」がついている。

書敷 C 以下 D は「御座面」となっている。

(1) 被仰出

(2) 御前様 御座様 D 記事なし

B 以下「御前様御子様御姫様」となっている。

(3) 御部屋様 御之中 C 以下記事なし

(4) 申立

御座面

(1) 被仰出 C 以下、D 記事なし

(2) 御座前頭 C 以下記事なし

(3) 吟味役 請掛役 B 以下記事なし

(4) 御料理方 C 以下記事なし

(5) 御衣具方 同右

御月格 拾六

御座面

(1) 御定 B 以下記事なし

(2) 御茶屋奉行 C 以下、D 記事なし

(3) 御役者

御武兵衛

(4) 御武具奉行

C 以下 (1) の前に「被仰出」の項がある（D 記事なし）

(4) 記事なし

(2) 諸職人

山方

(1) 山奉行

(4) 銅山 リ記事なし

(3) 矢立物 この、この記事なし

以下附として「御焼廻」がついている。

(4) 吟味紙 この以下記事なし

(5) 御焼代木 この以下記事なし

加勢増人

(1) 加勢増人

(4) 類役入加 この、この記事なし

(3) 結紐勘所 B以下記事なし

(4) 岩木川奉行 B以下記事なし

黒石

御用格 拾七

九浦

(4) 波印出

Dに附として「俵物一件」がついている。

(4) は次に「公義坂通行」「松前様一件」の二項があり、(4)、Dは両者が合一して「公義坂通行松前様一件」の一項目となっている。

(2) 三節隠所

(4) 青森 鑄字澤 この、この記事なし

(4) 漆方

(4) に「長濱寄物登人」、この、Dに「長濱

寄物番人別表」の附がついている。

(4) 津出 駄下 この以下記事なし

(6) 破船 この、この記事なし

(7) 中立

以下次に「御目見帯刀被下物差上物」の項

がある（但し(4)記）。

前各項目間の順序が(4)、Dは(4)、(5)、(7)、(1)、(2)、(4)、(6)、(7)と変わっており、又D

は(3)が(2)と(4)の間にもあつて、(3)の記事が二

ヶ所に装っている。

御用格 拾八

作事方 (B以下は「作事」とある)

(1) 御定

(2) 作事奉行 シ(イ)記事なし

(3) 吟味役 受辨役 リ記事なし

B 以下次に「御城中廻」の項がある。

(4) 御郭廻

B 以下「三郭御屋敷御取建」の附がある。

(5) 弘前廻

(6) 御制札 共(イ)記事なし、又(ロ)、リは項目記事なし

(7) 誌職人 シ(イ)以下記事なし

B 以下次に「在々浦々御普請」の項がある(

恒(ロ)記事なし

屋敷で (イ)の「屋鋪方」となっている)

(1) 被仰出

(2) 屋敷毎領屋敷替

C (イ)以下「秣場拜領」の附がつき、又 B は「

屋敷拜領附秣場年領」「屋敷替」の二項に分

れている。

(3) 屋敷差上 長屋拜借 リ記事なし

(4) 取建 取毀

(5) 同居町在宅

C (イ)は「同居町在宅別宅」となっている。
(6) 申立 シ(ロ)、リ記事なし

御用格 拾九

鳥敷

(1) 御鷹方 シ(イ)記事なし

(2) 御馬方

(3) 熊狐

切支丹類族

(4) 被仰出 B、C(ロ)、リ記事なし

(2) 新縁 B 以下記事なし

(5) 生死 シ(ロ)、リ記事なし

B に「漂流人」の附がついている。

(4) 申立 シ(イ)以下記事なし

御用格 式拾

吉事

(1) 御役替

B 、 C (イ)は「御役替并被召出附御剪裁共」となり、 C (ロ)、 D は「御役替并被召出附留番御

用拾御剪氣共」となっている。

(2) 分知 c、d、d 記事なし

(3) 御褒賞被下物

B は「御褒并下方ヶ条」あり、細目が掲げられている。即ち

(a) 惣而勤向ニ付御褒并御扶持被下方

(b) 御祝義并差上物ニ付被下方

(c) 武藝并師役武器嗜宜手跡宜御褒

(d) 御匠者御馬役御役者諸職人御褒

(e) 奉行高年病死後葬送料并御廻船登下怪哉等

而御褒并惣而御手宮被下方

c のは「御褒」「御手并凡而被下物」の二項に分れている。

又 c のは「御褒被下物」となり、細目がある。

即ち

(a) 御褒

(b) 差上物等有之御褒

(c) 御手并

さらに d は「御褒」「差上物等有之御褒」「

御手并并被下方」の三項目に分れている。

尚 B 以下次に「諸事」の項がある（但 c 記事なし）。

(1) 御定

(2) 差上物 c、d、d 記事なし

(3) 御頭 B 以下記事なし

(4) 他領被下物 c、d 記事なし

B は「他領被下物同差上物」となっている。

御用格 式拾巻（c は二十一巻以下欠本）

凶之部（B、D は「凶事」となっている）。

(1) 市門通塞 B、d 記事なし

B、D は (1) の前に「被仰出附詮議」の項が設けられている。

(2) 蟄居

(3) 御預

(4) 御長下

B は「御目見已御役下」「御目見已下御役下」の二項に分れている。

(5) 御暇

B は「御目見已上御暇」「御目見已下御暇」

の二項に分れている。

(6) 追放

Dに「送返町拂鞭刑」の附がついており、又
Bは「御家中御給人追放」「陪臣在町浦々之
者追放」「鞭刑并送返」の三項に分れている。

(7) 義絶 勘室 相談

(8) 一間 他出差留 聲高

(9) 召人御回下シ

B、Dに「公義御呼出之者」の附がある。

(10) 入牢 出牢

(11) 御仕置

B、Dは次に「盗賊召捕」の項がある。

(12) 遠慮諸事

Bに「頼ニ付申立」の附がついている。

尚Dは最目の欄事が(3)、(4)、(11)、(4)、
(3)、(6)、(5)、(7)、(8)、(9)、(10)の順に変わ
っている。

御用指 式拾式

凶之部 (B、Dは「凶事 窺遠慮」とある。

(1) 御印物 御判 D 記事なし

(2) 御出之節間違

(3) 御家老御用人 江無禮 D 記事なし

B、Dは「御家老御用人 并重役 江無禮」とな
っている。

(4) 御獻上 日之丸 御進物 D 記事なし

(5) 諸御禮 披露遠 差服遠

(6) 御名代 御印物 D 記事なし

(7) 御臺所

(8) 諸断 通用 御請

B、Dは「諸断諸通用御請」とある。

(9) 刀 鞘走 慮外

Bは「刀鞘走慮外怪我」、Dは「刀鞘走慮慮
」となっている。

(10) 記遠 遅滞 不吟味 不心附 心得違 御書初

Bは「記遠遅滞不吟味間違不心附心得違御書
物遅刻」と、Dは「記遠遅滞不味味間違不心
得御書物遅刻」となっている。

(11) 誓詞 御飛脚 登 D 記事なし

(12) 御慰 御鍵 湊 順違 目論違

(13) 御方 山方 屋敷 夜廻 養子 D 記事なし

(14) 諸渡物 押物 御用達 同方

(15) 組支取 同方

(16) 褒 鐘 失物 盗人 盗賊 御預 産慮 関所

評定所 B は項目記事共になし

B、D 及び C 何處産請事しの項があり、その次に (B、D 共に二冊目に入る) B は「出座定産慮御定し」、D は「出座定し」の項がある (記事なしは C)。

(17) 遠慮慎御呵

この項は B、D においてはそれぞれ数項に分れて記載されている。即ち B においては、

(1) 御目見已上産慮慎御呵

(2) 御馬從師範家遠慮慎御呵

(3) 御目見已下産慮慎御呵

(4) 父母并二三男等之義ニ付産慮慎御呵

(5) 給師之類御匠者御役者御職人遠慮慎御呵

(6) 在之者御呵

(7) 在浦之者御呵同リ黒石とも

(8) 在町浦及黒石之者御呵之義ニ付三奉行申立一

件

とあり、又 D は

(I) 遠慮

(II) 慎

(III) 御呵押込

(IV) 町在之者追放ニ付御家中産慮 記事なし

(V) 町役在役浦々凡而町在之者御呵 (附黒石家中求となつてゐる。D は (IV) が (V) の間にある。

尚 B、D は二十二巻が二冊よりなつており、

(16) 以前が B では二十二ノ上、C では二十二ノ下、(16) 以降 (D は (IV) が B では二十二ノ下、

D では二十二ノ上と B と D が逆の順序である。

御用格 貳拾参

費

(1) 被仰火事

(2) 私前火事

B に「江戸」の附がある。

(3) 在浦火事

(4) 山火事

(5) 地震 B 記事なし

(6) 洪水

(7) 大風 D 記事なし

(8) 出奔

(9) 陰子迷子 D 記事なし

(10) 打捨 D 記事なし

B、D は「討捨」とする。

B は次に「喧嘩相着」の項があり、D は「敵討」「喧嘩相着」の二項がある。

御用格 式拾四 (B は二十四巻欠本)

變

(1) 変死 乱心

D は「変死乱心怪我」とある。

(2) 家来変事 D 記事なし

(3) 雜人変事 D 記事なし

(4) 御国者他領ニ而変事

D は「御国もの他領ニ而変事病死」となっている(記記事)

(5) 他領之者御国ニ而変事

(6) 申立

D は「他領もの御国ニ而変事病死」とある。

尚 D は各項目間の順序が (1)、(4)、(2)、(3)、(6) となっている。